

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
31-5	中学校	音楽科	音楽 (器楽合奏)	第1～3学年
発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教 科 書 名		
17 教出	器楽 751	中学器楽 音楽のおくりもの		

1. 編修の基本方針

教育基本法及び学校教育法の内容に則り学校教育全体の目的を踏まえ、教育課題に対応した中学校音楽科の学びの具現化をめざし、以下の観点の基本方針として本教科書を編修しました。

演奏の仕方を身につけよう

〈吹く楽器〉 リコーダー

リコーダーは、アルトとソプラノのどちらを用いても、または併用でも、学習が展開できるようにしました。

見開きごとに**学びのねらい**を設定し、左上に明示しました。そして、そのゴールとなる**まとめの曲**までを**学びのユニット**としました。

学びのユニット

学びのねらい

学びのポイント

曲の雰囲気を感じ取りながら演奏しよう。

まとめの曲

▲p.8-9

しのぶえ 篠笛

しやくはち 尺八

篠笛と尺八では旋律や奏法を覚えたり伝えたりするための唱歌を適宜、表記しました。また、唱歌全般をまとめたページ「唱歌について」を新設しました。

▼唱歌について p.23

尺八「音の出し方」などは、まなびリンクにアクセスして動画で確認ができます。

音の出し方

歌口の先端は落つてくれず、すいので注意して扱います。

息を軽く閉じ、上唇と下唇の合わせ目に歌口の先端を合わせます。

管尻を下げ、歌口の先端が唇から少し離れたあたりがよい角度になります。

- 鼻と口の両方から息を十分に吸い吞みます。
- 四孔と五孔を塞いだ状態で、歌口を当てて息を出します。
- 歌口に当たる息のコントロールや角度を工夫して、尺八がよく鳴るポイントを探ってみましょう。

息を出して音が鳴っているときの唇の状態、唇は横に強く引いたりしないようにします。

▶p.25

《弾く楽器》 **ギター** **箏(こと)** **三味線**

ギターは主としてクラシック・ギターを扱い、基本的な奏法を習得する他、タブ譜を併記してその読譜を理解するなど、学校の実態に応じて学習を深められるようにしました。

タブ譜について Happy Birthday to You・p.31

左手で押さえる位置(フレット)をナットから数えた数字で表しています(「0」は開放弦です)。

Andante

▲p.34

《打つ楽器》 **太鼓**

打つ楽器としてわが国の太鼓を扱っている他、資料ページで小太鼓、大太鼓、ボンゴ、コンガ、カホンを紹介しています。

太鼓 かまえ方と打ち方

かまえ方と打ち方

太鼓には演奏される地域や音楽の種類によって、さまざまなかまえ方、打ち方がありますが、基礎にのりしかりと重心を低く保つようにしてかまえるのが基本です。そのかまえ方を使いまわし、胴全体を大きく振り、太鼓の底の中心付近(よく響く部分)に向かって打ち込みます。

正対がまえ 太鼓に対して体が正面を向いたかまえ方です。

横顔太鼓をやぐら台に置いた場合

大鼓: 曲民賢

小太鼓はヘッド(鼓面)の中央付近を打つとしかりとした明確な音が出ます。

小太鼓(スネアドラム)

打楽器

そのときはヘッドのリムを振り打つなど、打ち方を工夫すると太鼓の響きの広がります。

▲p.98

自然と音楽の構造との関わりを理解したり、右手の使い方や鍵盤の読み方などの基本的な奏法を身につけたりしながら、表現を工夫しよう。

五線譜

さくらさくら

曲想を感じ取り、基本的な奏法を身につけながら表現しよう。

縦譜

箏の奏法は、原則によってさまざまなものが考案されています。ここでは五線譜と箏面別の楽譜を用いています。

楽譜について

①のところは前の音を繰り返して弾く。
②のところは前の音を弾く。
③のところは前の音(または前の音の裏打ち)。
(※p.42「荒城の月」p.85「月の夜」参照)

▼p.23

▲p.40

箏と三味線は五線譜と併せて縦譜や文化譜も掲載し、学校の実態に応じて扱えるように配慮しました。

吹く楽器と弾く楽器のそれぞれの区切りは、各楽器を比較しながら特徴を主体的・協働的にまとめる「何が同じで、何が違う」のページです。

吹く楽器の区切り

何が同じで、何が違う? PART-1

何が同じで、何が違う? PART-2

▲p.26

▲p.52

合わせて演奏しよう 名曲旋律集

教科書後半は合奏と創作教材を中心とした合わせて演奏しようおよび名曲旋律集とし、習得した知識や技能を活用して学びを深められるようにしました。

p.40 で押し手の技能とともに学習した「荒城の月」を二部合奏で表現

構成を工夫して仕上げる創作教材音のスケッチ「不思議な旋律 PART-1」

合わせて演奏しよう

Let's Play **荒城の月**

主要旋律を確かめ、全体の響きを感じ取って合わせて表現しよう。

二部合奏

不思議な旋律 PART-1

楽器の音色(おんしょく)や響きを生かし、全体の構成を工夫しながら表現しよう。

グループに分かれて楽譜Aを演奏します。連奏や強弱などは、グループで話し合ってください。

楽譜A

楽譜B

楽譜C

楽譜D

楽譜E

楽譜F

楽譜G

楽譜H

楽譜I

楽譜J

楽譜K

楽譜L

楽譜M

楽譜N

楽譜O

楽譜P

楽譜Q

楽譜R

楽譜S

楽譜T

楽譜U

楽譜V

楽譜W

楽譜X

楽譜Y

楽譜Z

▲p.70-71

2. 対照表

教育基本法第二条の第1号から第5号との対応を示します。

〈第1号〉幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。

〈第2号〉個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。

〈第3号〉正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。

〈第4号〉生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと。

〈第5号〉伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
○さまざまな音色や響きと奏法	・教科書で扱う多様な楽器と演奏家を掲載し、生徒の豊かな情操の育成に配慮しました。(第1号)	・①～②
○中学生のみなさんへ	・演奏家による言説が、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づいている点を重視しました。(第3号)	・③
○演奏の仕方を身につけよう	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が音楽表現の豊かさや美しさを感じ取りながら表現するための基礎的な知識と技能が身につくよう配慮しました。(第1号) ・身体的に無理なく健やかに楽器を演奏できるよう配慮しました。(第1号) ・生徒一人一人がその能力を伸ばし、創造性を培うよう配慮しました。(第2号) ・演奏家からのメッセージを掲載し、個人の価値を尊重するとともに、職業としての音楽家を意識できるよう配慮しました。(第2号) ・我が国の自然や四季の美しさ、暮らしとの関わりを感じ取れる点を重視しました。(第5号) ・和楽器の音色や響き、奏法や楽曲の特徴などを感じ取れるよう配慮しました。(第5号) ・和楽器と洋楽器を比較し、特徴や共通点と相違点を考える手立てとしました(第5号) 	<ul style="list-style-type: none"> ・p.4～26, p.28～52, p.54～59 ・p.5, 19, 24, 28, 38, 44, 56～59, ・p.4～26, p.28～52, p.54～59 ・p.4, 18, 24, 28, 36, 44, 54 ・p.14, 22, 25, 40, 41, 49 ・p.18～26, p.36～52, p.54～59 ・p.26, p.52

<p>○合わせて演奏しよう</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が音楽表現の豊かさや美しさを感じ取りながら表現するための基礎的な知識と技能が身につくよう配慮しました。(第1号) ・生徒一人一人がその能力を伸ばし、創造性を培うよう配慮しました。(第2号) ・自ら器楽表現を工夫することや他者と交流しながら小集団や学級としての表現をつくることができるように配慮しました。(第3号) ・美しい自然をイメージして演奏することで、環境の保全を意識する手立てとしました。(第4号) ・大震災復興記念事業から生まれた作品を演奏することで、生命を尊び環境の保全を意識する手立てとしました。(第4号) ・我が国の自然や四季の美しさ、暮らしとの関わりを感じ取れる点を重視しました。(第5号) ・和楽器の音色や響き、奏法や楽曲の特徴などを感じ取れるよう配慮しました。(第5号) 	<ul style="list-style-type: none"> ・p.60～93 ・p.60～93 ・p.60～93 ・p.68～69 ・p.86～87 ・p.60～61, p.70, p.78～83 ・p.68～70, p.78～87, p.92～93
<p>○名曲旋律集</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が音楽表現の豊かさや美しさを感じ取りながら表現するための基礎的な技能が身につくよう配慮しました。(第1号) ・生徒一人一人がその能力を伸ばし、創造性を培うよう配慮しました。(第2号) ・我が国の自然や四季の美しさ、暮らしとの関わりを感じ取れる点を重視しました。(第5号) ・和楽器の音色や響き、奏法や楽曲の特徴などを感じ取れるよう配慮しました。(第5号) 	<ul style="list-style-type: none"> ・p.94～97 ・p.94～97 ・p.97 ・p.97
<p>○資料</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い知識を身につけられるよう配慮しました。(第1号) 	<ul style="list-style-type: none"> ・p.98～99, ④～⑥

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

●見やすく、わかりやすい紙面

判型はAB変型判を採用し、楽器名・楽器概説、演奏者から中学生へのメッセージ、学習事項、活動事項など、必要な情報を見やすく掲載しています。

楽器名

リコーダー

ソプラノ・リコーダー アルト・リコーダー

楽器概説

●リコーダーは、ルネサンスからバロックの頃に於いて盛んに用いられました。

●18世紀中頃にフラウト・トラヴェルソ(バロック・フルート)が広まると、使われる機会は急速に減少しましたが、20世紀になってから復活しました。

活動事項

●吹いてみよう

ソプラノ・リコーダーとアルト・リコーダーは管の長さや太さが異なり、同じ運指でも音が異なります。下に示した運指で音を出し、どのような関係になっているか確かめましょう。

選指が共通の音の例

ソプラノ

アルト

この小さな8は、実際の音(実音)が1オクターブ高いことを表します。

中学生へのメッセージ

リコーダーの魅力

リコーダーは息を使って音を出す楽器なので、歌に似ているとされています。演奏中は自分自身が楽器の一部になっている感で、感情や思いがストレーンに伝わる楽器です。それがリコーダーのおもしろさであり、魅力でもあります。

安藤由香

姿勢とかまえ方

肩の力を抜いて背筋を伸ばそう

唇をひき、吹き口を器でやわらかく包むようにしよう

自然な角度でかまえよう

リコーダー：安藤由香

上唇を軽く開き、おなかの膨らむくらいまで息を吸います。(p.13)

各部の名称

吹き口

ウィンドウ

ジョイント

指穴(サムホール)

指穴(サムホール)

ジョイント

指穴(サムホール)

吹き口

指穴の番号と指番号

指穴は、下の図で示された指番号と合った指で蓋ぎます。

右手

左手

チューニング

音合わせをすることを、チューニングといいます。リコーダーは、図のようにジョイントを抜いたり差し込んだりすると、ピッチ(音の高さ)が変わります。リコーダーは吹き始めと、しばらく吹いて楽器が温まったときには、ピッチが変わることがあります。吹く前に頭部管をてのひらで包み温めておくと、チューニングがしやすくなり、音のかすれの原因となる水が付きにくくなります。




ピッチの調整の仕方

ピッチを下げる場合

ピッチを上げる場合

▲p.4-5

●学びを支えるWEBリンク

-  …見る 音楽表現を視聴し確認できるようしました
-  …聴く 音楽表現を聴取し学びに生かせるようにしました
-  …知る 学習で使う資料を用意しました

●その他の特色

①ユニバーサルデザインへの配慮

色覚などの特性をふまえた、判読しやすい配色(カラーユニバーサルデザイン)やレイアウト、表現方法、文字(ユニバーサルデザインフォント)などの工夫により、すべての生徒にとって学びやすい紙面づくりに配慮しています。

②地球となかよし

教科書の印刷には、環境にやさしい再生紙と植物油インキを使用し、地球環境への負荷軽減に配慮しています。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
31-5	中学校	音楽科	音楽 (器楽合奏)	第1～3学年
発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教科書名		
17 教出	器楽 751	中学器楽 音楽のおくりもの		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

●基本的な構成と趣意

主体的・対話的で深い学びの実現に向け、進んで学び合う活動が展開できるように紙面を工夫しています。教科書前半は、器楽表現のために習得する基本的な知識や技能をまとめた演奏の仕方を身につけよう、後半は合奏と創作教材による合わせて演奏しようおよび名曲旋律集とし、演奏の仕方を身につけようで習得した知識や技能を活用して学びを深めるようにしました。また、学習に役立つ情報にアクセスできるまなびリンクを設定しました。

演奏の仕方を身につけよう

〈吹く楽器〉

リコーダー

のぶえ
篠笛

しゃくはち
尺八

リコーダーは見開きごとに**学びのねらい**を設定し、左上に明示。学びのねらいには、そのゴールとなる**まとめの曲**を設定し、**学びのユニット**としました。また、「カノン」を取り上げ、他者との協働を促すようにしました。

篠笛と尺八は、適宜、唱歌を表記しました。唱歌全般についてまとめたページ「唱歌について」を新設しました。

学びのユニット

学びのねらい

「学びのねらい」欄には、学習の目標と到達点を明確にし、他のパートと合わせて演奏する目標を掲げ、達成するための学習活動を示す。

学びのポイント

「学びのポイント」欄には、学習の重点となる内容を明確にし、学習のねらいと合わせて演奏する目標を掲げ、達成するための学習活動を示す。

喜びの歌

「喜びの歌」欄には、学習の成果を表現するための楽曲を掲載し、学習のねらいと合わせて演奏する目標を掲げ、達成するための学習活動を示す。

まとめの曲

オーラリー

「オーラリー」欄には、学習のねらいと合わせて演奏する目標を掲げ、達成するための学習活動を示す。

メリさんの羊

「メリさんの羊」欄には、学習のねらいと合わせて演奏する目標を掲げ、達成するための学習活動を示す。

カノン1

「カノン1」欄には、学習のねらいと合わせて演奏する目標を掲げ、達成するための学習活動を示す。

▲p.8-9

唱歌について

「唱歌について」欄には、唱歌の歴史や特徴、演奏の仕方などについて詳しく解説し、学習のねらいと合わせて演奏する目標を掲げ、達成するための学習活動を示す。

唱歌の例

尺八 - p.25

三味線 - p.49

大鼓 - p.59

唱歌で使う言葉は仮名の仕方によって異なる場合があります。

▲p.23

《弾く楽器》

ギター

そう 箏(こと)

しゃ み せん 三味線

ギターは主としてクラシック・ギターを扱い、基本的な知識と技能を習得します。また、タブ譜の読み方を理解できるようにしました。箏と三味線は適宜、唱歌を表記しました。箏は箏曲「六段の調」(三段の冒頭)に挑戦しますが、弾き方については、まなびリンクにアクセスして動画で確認できます。

箏曲「六段の調」に挑戦!

八橋検校が作曲したと伝えられている箏曲「六段の調」は、六つの段(部分)からなります。その中から三段の冒頭8拍分を弾いてみましょう。

平調子(一の弦をホ音で) 三段
サー ラリン トン コーロリンシャン

1 拍体みます。
サーラリン... 箏譜という奏法を表します。角爪で弾く場合、まず人さし指を親指で支え、手首を振って一の弦を「サー」と弾くように...
2 1 3 4 5

▲p.43

《打つ楽器》

たい こ 太鼓

打つ楽器はわが国の太鼓の他、資料として小太鼓、大太鼓、ボンゴ、コンガ、カホンを紹介しています。

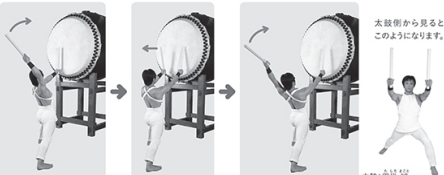
太鼓 かまえ方と打ち方

かまえ方と打ち方

太鼓には演奏される地域や楽器の種類によって、さまざまなかまえ方、打ち方がありますが、基本は十分にしっかりと重心を低く保つようにしてかまえるのが基本です。そのかまえを保ったまま、胴全体を大きく振り、太鼓の皮の中心付近(よく響く部分)に向かって打ち込みます。

姿勢がまね 太鼓に対して体が正面を向いたかまえ方です。

長胴太鼓をやくら台に置いた場合



太鼓側から見るとこのようになります。

長胴太鼓の場合、手前だけを打つとすると、皮の反動に負けてしまいます。写真のように胴全体を大きく振り、全身を使って打つようにしましょう。

長胴太鼓を伏せ台に置いた場合

▲p.56

打楽器

小太鼓(スネアドラム)

小太鼓はヘッド(鼓頭)の中央付近を打つとしっかりとしめ響る音がします。



▲p.98

何が同じで、何が違う?

吹く楽器と弾く楽器の区切りの部分に設置。各楽器を比較しながら主体的・協働的に特徴をまとめていくページです。

弾く楽器の区切り

何が同じで、何が違う? PART-2
楽器の区切りを比較しながら、主体的・協働的に特徴をまとめていくページです。

▲p.52

合わせて演奏しよう

アルト・リコーダー二部合奏「もみじ」やソプラノ・リコーダー二部合奏「故郷の人々」など、比較的平易な合奏曲を集めたLet's Play! と、グレードを上げたLet's Try!, そして、創作教材 音のスケッチで構成しています。音のスケッチ「不思議な旋律 PART-1, 2」「楽器と唱歌によるパッチワーク」などでは、音楽的な見方・考え方を働かせ、他者との協働を促します。

「手」の構成を工夫してお囃子を創作する

楽器と唱歌によるパッチワーク
音楽の構成を工夫してお囃子を創作する
楽器の構成を工夫して、お囃子を創作する

▲p.92-93

名曲旋律集

素材となる名曲は、鑑賞教材や歌唱共通教材として親しまれている教材などから精選しました。

【掲載曲(抜粋)】

- 赤とんぼ
●シューベルトの子守歌
●冬(ヴィヴァルディ)
●ブルタバ(モルダウ)
●ボレロ
●交響曲第5番(ベートーヴェン)
●凱旋の行進曲

カノン2	p.13							○	○	○									○	○	
きらきら星	p.14							○	○	○	○	○								○	○
浜辺の歌	p.14	○	○		○			○	○	○	○									○	○
威風堂々	p.15							○	○	○	○	○								○	○
カノン3	p.15							○	○	○	○	○								○	○
大きな古時計	p.16							○	○	○	○	○								○	○
ブランデンブルク協奏曲 第2番から 第2楽章	p.17							○	○	○	○	○								○	○
ブランデンブルク協奏曲 第2番から 第2楽章 (鑑賞)	p.17																		○	○	○
ブランデンブルク協奏曲 第4番から 第1楽章	p.17																		○	○	○
たこたこあがれ	p.20	○		○	○			○	○	○	○									○	○
ひらいたひらいた	p.20	○		○	○			○	○	○	○									○	○
さくらさくら (篠笛)	p.21							○	○	○	○									○	○
子守歌	p.22	○	○		○			○	○	○	○									○	○
祭囃子	p.22							○	○	○	○	○								○	○
もういいかい	p.25	○		○	○			○	○	○	○									○	○
長唄「越後獅子」	p.26																		○	○	○
尺八曲「鹿の遠音」	p.26																		○	○	○
アニー・ローリー	p.31							○	○	○	○									○	○
Happy Birthday to You	p.31							○	○	○	○									○	○
カリンカ	p.33							○	○	○	○	○								○	○
ラ・グンバルシータ	p.34							○	○	○	○	○								○	○
練習曲1	p.39							○	○	○	○	○								○	○
練習曲2	p.39							○	○	○	○	○								○	○
さくらさくら (箏)	p.40	○	○		○			○	○	○	○									○	○
荒城の月	p.41	○	○		○			○	○	○	○									○	○
「荒城の月」の前奏をつくってみよう	p.42																		○	○	○
箏曲「六段の調」に挑戦!	p.43							○	○	○	○									○	○
さくら変奏曲	p.43																		○	○	○
開放弦の練習	p.47							○	○	○	○									○	○
さくらさくら (三味線)	p.49	○	○		○			○	○	○	○									○	○
スクイ、ハジキ、打ち指の練習	p.50									○	○									○	○
長唄「勸進帳」から 寄せの合方(鑑賞)	p.50																		○	○	○
長唄「勸進帳」から 寄せの合方	p.51							○	○	○	○	○								○	○
アランプラ(アルハンブラ)の思い出	p.52																		○	○	○
基本のリズムを打ってみよう	p.59							○	○	○	○									○	○
もみじ	p.60	○	○		○			○	○	○	○	○								○	○
故郷	p.61	○	○		○			○	○	○	○	○								○	○
故郷の人々	p.62	○	○		○			○	○	○	○	○								○	○
シチリアーナ	p.63							○	○	○	○	○								○	○
カントリー・ロード	p.64	○	○		○			○	○	○	○	○								○	○
木星	p.66~67							○	○	○	○	○								○	○
一番星みつけた/夜空を見上げて	p.68~69							○	○	○	○	○	○	○	○	○				○	○
荒城の月 (箏二部)	p.70							○	○	○	○	○	○							○	○
不思議な旋律 PART-1	p.71							○	○	○	○	○	○	○	○					○	○
キエフの大門	p.72							○	○	○	○	○	○							○	○
風のとおり道	p.73							○	○	○	○	○								○	○
風笛	p.74							○	○	○	○	○								○	○
春	p.75							○	○	○	○	○								○	○
メヌエット	p.76							○	○	○	○	○								○	○
不思議な旋律 PART-2	p.77							○	○	○	○	○	○	○	○					○	○
さくらさくら (箏二部)	p.78~79, 82							○	○	○	○	○								○	○
こきりこ節	p.80~81, 83							○	○	○	○	○								○	○
もののけ姫	p.84~85							○	○	○	○	○								○	○
千の海響 望の章	p.86~87							○	○	○	○	○	○	○	○					○	○
ライディーン	p.88~89							○	○	○	○	○								○	○
ジョイフル コンビネーション1, 2	p.90~91							○	○	○	○	○								○	○
楽器と唱歌によるパッチワーク	p.92~93							○	○	○	○	○	○	○	○					○	○
シューベルトの子守歌	p.94							○	○	○	○	○								○	○
プルタバ (モルダウ)	p.94							○	○	○	○	○								○	○
冬	p.94							○	○	○	○	○								○	○
組曲「展覧会の絵」	p.95							○	○	○	○	○								○	○
交響曲第5番 八短調	p.95							○	○	○	○	○								○	○
交響組曲「シェラザード」	p.95							○	○	○	○	○								○	○
ポレロ	p.96							○	○	○	○	○								○	○
凱旋の行進曲	p.96							○	○	○	○	○								○	○
赤とんぼ	p.97	○	○		○			○	○	○	○	○								○	○
グリーンスリーブス	p.97							○	○	○	○	○								○	○

編 修 趣 意 書

(発展的な学習内容の記述)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
31-5	中学校	音楽科	音楽 (器楽合奏)	第1～3学年
発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教 科 書 名		
17 教出	器楽 751	中学器楽 音楽のおくりもの		

ページ	記 述	類型	関連する学習指導要領の内容や 内容の取扱いに示す事項	ページ数
27	吹く楽器の仲間たち	2	○内容の取扱い 2-(3)-イ 各学年の「A表現(2)器楽」の指導 (上記の項目では、指導上の必要に応じて用いる楽器について記されているが、本コーナーでは、管楽器及び世界の諸民族の楽器の、背景にある文化や伝統、構造について調べる学習とした)	1
53	弾く楽器の仲間たち	2	○内容の取扱い 2-(3)-イ 各学年の「A表現(2)器楽」の指導 (上記の項目では、指導上の必要に応じて用いる楽器について記されているが、本コーナーでは、世界の諸民族の楽器の、背景にある文化や伝統、構造について調べる学習とした)	1
合 計				2

(「類型」欄の分類について)

- 1…学習指導要領上、隣接した後の学年等の学習内容（隣接した学年等以外の学習内容であっても、当該学年等の学習内容と直接的な系統性があるものを含む）とされている内容
- 2…学習指導要領上、どの学年等でも扱うこととされていない内容